

令和1年度 日常生活援助実習評価表

目的：看護師が患者の生活や健康状態の視点から、日常生活援助を展開する過程を体験することにより、看護師が整えるべき日常生活援助を理解する。

目標：1. 看護師が行う日常生活を整える視点・要素を知る。

2. 安全・安楽な日常生活援助ができる。

3. 日常生活を整える看護のプロセスから、生活の概念と日常生活を整える意義を理解する。

学籍番号（ ） 氏名（ ）

学習活動	学習活動における具体的評価規準	評価資料	評価	評価基準			ポイント
				A10点	B6点	C4点	
1. 実習目的に照らし合わせ、自分の学習課題に沿って事前学習ができる。	(1) 日常生活を整えるための学習計画を立て、計画に沿った準備をして臨んでいる。	ビジョン・ゴールシート ノート 対話		実習で活用することをイメージして学習の準備ができている。	日常生活を整える上での根拠となる学習をしているが、実践で活用できる内容としては不十分である。	日常生活を整える上での学習が不十分である。	日常生活援助・バイタルサイン測定の基礎知識・病態生理・コミュニケーション成立過程・看護のプロセス・日常生活行動の知識（食事に関する基礎知識（栄養状態・摂食嚥下・摂食行動）、自然排尿・排便（排泄のメカニズム）、活動（体位・移動）、休息（睡眠メカニズム・種類）、苦痛の緩和（体位）、安楽の確保、清潔（皮膚粘膜の構造）、衣生活の基礎知識）
2. 看護師と共に行える範囲の日常生活援助を実践する。	(1) 患者の生活や健康状態の視点から整えるべき日常生活援助を考えている。	インパクトシート 基本情報 分析シート 看護計画 観察 対話 ポートフォリオ		患者の生活と健康状態の変化による生活の課題を十分に理解でき、日常生活援助の必要性を明確に表現できる	患者の生活と健康状態の変化による生活の課題が部分的に理解でき、日常生活援助の必要性を表現することが不十分である	患者の生活と健康状態の変化による生活の課題を理解できておらず、日常生活援助の必要性が表現できていない	もてる力・生活の課題・健康状態・日常生活行動・生活（生理学的側面・文化的側面・社会的側面・経済的側面）
				日常生活援助の必要性に基づいた立案ができ、持てる力・健康状態に配慮した安全安楽を考えた計画を立案できる	日常生活援助の必要性に部分的に基づいた立案ができ、持てる力・安全安楽の視点が部分的だが計画を立案できる	日常生活援助の必要性に基づいた立案ができず、持てる力・安全安楽を考えない計画を立案している	
				安全：日常生活援助における危険に気付け、回避するための計画を実施できている	安全：日常生活援助における危険に気付けているが、計画や実践に活かすには不十分である	安全：日常生活援助における危険に気付かず、また、助言を受けても次に生かせていない	
	(2) 安全安楽・持てる力を活用しながら実践できる。			安楽：患者の生活や状態を考えた計画を実施できている	安楽：患者の生活や状態を考えているが計画や実践に活かすには不十分である	安楽：患者の生活や状態を十分に考えられず、安楽な実践に繋がっていない	安全・安楽・観察・援助の実践・関係構築のためのコミュニケーション・看護のプロセス 評価（目標に対する、課題の明確化、次への解決策） ・対象者の状態や反応を確認しながらの実施 ・食事介助・自然排尿排便の援助・体位変換、移動の援助・睡眠、休息の援助・褥瘡・体位保持・清潔の援助・バイタルサイン測定
				持てる力：患者の持てる力を十分理解し、実践の中で危険なく活用できている	持てる力：患者の持てる力の理解は十分ではないが活用できている	持てる力：患者の持てる力の理解が不十分であり、全く活用できていない。もしくは、危険を伴っている。	
				評価：安全・安楽・持てる力の活用についての評価が行えている。	評価：安全・安楽・持てる力の活用についての評価をしているが不十分である。	評価：安全・安楽・持てる力の活用についての評価が欠けている。	
	(3)安全・安楽・持てる力の活用の視点を基に評価できる。			計画への追加：評価の内容に従って、再度アセスメントや計画の追加修正を行い実践に活かしている。	計画への追加：評価の内容に従って、助言により計画の追加修正を行い実践に活かしている。	計画への追加：評価の内容に従って、計画の追加修正を行っておらず、実践にもいかせていない。	看護のプロセス（問題解決技法、看護過程）・実践の評価（目標達成度・患者の状態の変化・主観的満足度・技術等）
3. カンファレンス等を通して、看護師が整える日常生活援助の意義を理解する。 (学びを共有する)	(1) 看護師が整える日常生活援助の意義を理解できる。	対話 観察 成長報告書 元ポートフォリオ 凝縮ポートフォリオ		実際の場面を提示しながら、既存の看護の概念などから考察した上で自分の言葉で看護師がなぜ日常生活援助を行うのか具体的に述べている。	実際の場面を提示しながら既存の看護の概念などから考察はしているが、看護師がなぜ日常生活援助を行うのか一般的なまとめとなっている。	実際の場面を提示しているが、なぜ看護師が日常生活援助を行うのか述べていない。	日常生活援助の意味付け（看護理論・看護倫理・看護の役割）
				看護についての自分の考えを他者へ分かりやすく伝え、かつ、他者の学びを参考にしながら自分の学びにしている。	自分の考えは述べているが、他者に伝わりにくく、かつ、他者の学びを参考にできていない。	自分の考えを述べるできていない。	

実習指導者

印

担当教員

印

点/100点 優 良 可 不可